

0.経歴

2010年に名古屋大学文学部人文学科を卒業後、同大学院環境学研究科博士課程修了、特任助教などを歴任。2022年より現職。専門は社会地理学、開発地理学、南アジア地域研究。

1.研究内容

――先生の研究内容・経緯について教えてください。

最初はバングラデシュの物乞いの 研究をしていました。開発援助に興味があったから始めたんですが、でも開発援助でやられていることって 問題も多いんじゃないかと思い始めて。物乞いの人たちが実際にどう生活してて支援がそれとどうかみ合っているのか、かみ合っていないのかみたいな話を卒論でやりました。

物乞いの研究は元々日本の文化人 類学の先生が博論でやっていたんで すが、当時の私はそれを知らずにや ろうとしちゃいました。最初にバン グラデシュへ行った時はホントに全 然違う話やってて、私の先生がもと もと定期市の研究とかしていたので、 私も零細な万屋みたいなとこに入っ て、商品がどこからどこで作られて、 どこで仕入れて誰が買っていくのか みたいな話をしていました。だけど、 そこの店の息子さんがちょっと事件 に巻き込まれて。それで、何か調査 どころじゃなくなっちゃって、「何 しようかな~」って思ってたら、結 構物乞いの人たちが多かったので、 ちょっと気になるからやってみよう、 みたいなすごい軽い気持ちでした

とはいえ、小さい頃からホームレスの人がすごい気になってたんです。いつも遊ぶ公園でホームレスの人が 絶対一人はベンチに座っていて。いつも同じ人ではなかったと思うんで すけど、そういう小さい頃の経験も あって研究することにした、って感じですね。

それから物乞いの話を続けようと したんですが、バングラデシュの村 にフィールドワークに1年間入って いたら、ある地域からすごいいっぱ い物乞いの人が来ることに気がつい たんです。「なんであそこの辺ばっ かりから来るんだろう? | っていう 風に調べてたら、そこがムスリムの 中で差別されている人の多い地域 だったんです。これはちょっと物乞 いにこだわっている場合じゃないと 思って、そしたらどんどんカースト の話になっていきました。それで修 論博論とやってこの間ようやく本 (編集部注:5ページ「著書紹介」 を参照)になって一段落しました。

次第にその地域からサウジアラビアや中東へ出稼ぎに行って、少し違う考えを持って帰ってきている人たちがいることも気になってきました。イスラームの中でも色んな思想があるので、バングラデシュで元々実践されているイスラームと、出稼ぎに行った人たちが出会うイスラームででかっぱりちょっと違っているんです。それをどういう風に地域に持って帰ってきて、どういう風に地域社会に影響を与えているかという話をポスドクでやりました。

そういう研究をやっていたところにロヒンギャの問題が2017年に起きました。それまでもずっとロヒンギャの人たちの問題ってバングラデシュが抱えていたんだけど、恥ずかしながら、私はそれをあんまりちゃ

んと知らなかったんです。「これはいけないだろう」と思って、キャンプとかへ行って調査をし出すようになって、ロヒンギャの研究もするようになりました。

その間に更にもう一つ。「陸前高田でフィールドワークしませんか?」と誘われて、それもノコノコ付いていって、いつの間にか**陸前高田にもどっぷり**浸かってフィールドワークをしています。



人口:1億6,515万人(2021年)

面積:147,000平方キロメートル

人口密度: 1315.1人/km²

公用語:ベンガル語 GDP: 3.052億USドル (2022年)

主要産業:衣料品産業、農業

概説:本州より小さな国土に日本のおよそ 1.5倍の人口を抱え、世界で最も人口密度 の高い(都市国家を除く)南アジアの国。農 材人口の割合が比較的高いが、現在急速な

村人口の割合が比較的高いが、現在急速な

都市化と経済成長のただなかにある。

はみだし

前期の月曜は10kgのリュックを背負っていました。

⇒重い荷物ってじわじわ体に負荷かかって辛いですよね~

(農・2 funa)

(中高時代の鞄が重すぎたせいで左右の肩の高さが違うまま……。;編)

2.フィールドワーク

―フィールドワークの面白さは 何ですか。

やっぱり色んな人と話をして「繋 がり」ができるっていうのが一つ 大切なことだと思います。好きな 場所って多分人それぞれあると思う んです。誰にも会わなくても、そ こが大切な場所になるかもしれない けど、自分にとって大切な場所って 結構人とも繋がっているんですよね。 そこに誰が居るのかっていう風に。 フィールドワークをしていると、そ ういう繋がりがたくさんできて、毎 回通う度に「わ~~また来た!」と か、「最近どうなの?」みたいな感 じでずっと色んな人たちと繋がって いられる。そういうのも面白いです し、自分が全然知らない話をたくさ ん教えてもらえるので、フィールド に行くたびに新しい発見がいつも あってすごく勉強になるのも面白さ ですね。



本を読んでいても活字になってる と眠たくなるだけであんまり内容が 入らなくて。やっぱり人から実体験 で聞くとすごい生々しいじゃないで すか。それで「何でそんなことになっ てるんだろう? | っていうのが研究 のモチベーションになっているんで すよね。

------逆にフィールドワークの大変 さは何ですか。

最近は子供を連れてやっているの で、自分自身が物理的に大変ってい うのもあるんですけども、それ以上 にフィールドワークをしている研究 者を受け入れている周りの人達の大 変さというのが最近すごくよく分か るようになりました。学生の時は周 りが見えてなかったから、そういう 苦労を全然分かっていなくて、ホン ト迷惑ばかりかけたと思う。バング ラデシュの村の普通の女性が何をし ているかというと、家事と育児が中 心です。自分は育児をぼちぼちやっ てるにしても、家事を殆どやらずに フィールドワークをしているわけで。 それがいつも申し訳ないなと思うん ですよね。支えてもらっているから。 研究者って特権的なんですよね。食 べ物に困ってなくて、待っていれば 食べ物を出してくれる人がいて。「そ この地域が好き|「そこの人が好き| と言っている割にそこの人達に迷惑 かけている自分が矛盾しているよう な気がして、最近それが悩みです。

――現地で言語の問題はありまし

私が卒論を書いていた時、今の夫 が通訳 (ガイド) をしてくれていた んです。今も一緒にフィールドワー

クをしているんですが、その時はべ ンガル語を英語に訳してもらって、 という形でやっていました。なんで すが、最初は全然意思疎通できませ んでした。私は日本語訛りの英語で、 向こうはベンガル語訛りの英語で、 お互い「こいつ英語使えないな~」 みたいな。しばらくしてそれもだん だん慣れてきて、ちょっと調査がで きるようになりました。でもベンガ ル語でたくさん喋ってくれている人 がいたのに夫が通訳してくれるのは 一言二言ということがあって。「え? 何かめっちゃ端折ってない? |「もっ と教えてよ! |って。



それからこれは夫に頼っている場 合じゃないと思って、卒論の口頭試 問が終わった次の日からベンガル語 学校に合計3ヶ月間通いました。そ れでもペラペラになれるかというと、 全くそういう訳ではなくて。バング ラデシュってあんな小さいのにすご い方言が強くて。夫ですら方言が分 からない地域がたくさんあったんで す。特に少し上の世代の女性が何を 言っているかが分からなくて、それ が大体分かるようになったのが6ヶ



月住んでからって感じでした。それ までは分からないことがあったら こうやって(肘で夫をつつきなが ら)「何言ってんの、ちゃんと教え てよ!っていう感じでしたね。

今は方言にも大体慣れてきて、む しろ私の方言が強くなって標準語が 喋れない。インドの西ベンガル州(編 集部注:次ページのコラムを参照) のベンガル語と結構違っていて。発 音が全然違ったりするので、「何言っ てるんだこいつ | みたいな顔をされ ることもあるくらい全然通じないん だけど。でもこの前、日本に住んで いるベンガルの人に「あなたのベン ガル語めっちゃ面白いね」って言わ れてしまって。多分日本の人からす ると、外国の人が博多弁喋ってるみ たいな感じなんでしょうね(笑)

――海外の人とコミュニケーショ ンを上手く取るコツは何ですか。

コミュニケーションを取りつつ、 長い時間を一緒に過ごすしかない気 がしますね。いきなり気が合って、 うまくやっていけるようになるかっ ていうと、そういうわけではないと 思います。

あとちゃんとそこの人の言うこと を聞くっていうのはやっぱり重要な んです。安全上も、ポッと行った人

フィールドワークができるから、授業や 会議っていう苦しい時間を過ごせる。

が全然分からない危険性みたいなも のもたくさんあって。だからちゃん と相手のことを聞きながらも、自分 の調査の希望も聞いてもらうみたい なことが大切です。

自分もそこの地域のことを勉強し て分かるようになっていかないとい けないし、向こうの人にも自分の研 究の意図とか何をしたいのかという のを分かってもらう必要があって、 ここはやっぱ時間とコミュニケー ションだなと思いますね。

でも最近2週間とか1週間じゃな いと行けないから。それで友達にな るとか、ずっとそこにいて村の人と して扱ってもらうみたいなのは、あ んまり新しいフィールドだとできな くて。最近それも悩みですね。

―――先生が取り組まれている 「フィールドワークとハラスメント」 についてお聞かせください。

「フィールドワークをしている時 にそういう問題ってあるけどなかな か対策されてないよね」っていうこ とで、文化人類学とかの先生も何人 か交えて2020年からようやく始動 しました。

私は結構ショックだったんです。 全然そんな話聞いたことなかったの で。私からしてみたらフィールド ワークができるから、なんとか授業 や会議っていう苦しい時間を過ごせ るわけで。そんな楽しいフィールド ワークがハラスメントで苦痛になら

ないようにしたいなという風に思っ たのがきっかけです。

でも聞き出すと結構あるんですよ ね。フィールドの人たちからハラス メントを受けるのは難しい問題で、 フィールドワークをする研究者って 特権的な立場で入ってきているわけ なんです。だから、そもそもフィー ルドワークをするっていうことが、 その地域にとってどうなのか、みた いな問題も絡んできて、ちゃんと議 論しないといけない。

論外なのが、付き添いの先生や向 こうの日本大使館とか駐在の人とか が手を出すこと。むしろ保護するべ き立場の人たちがそういうことして るっていうのがだんだん分かってき て、これは先に何とかしないといけ ないだろうっていう感じにはなって いるんだけど、これもなかなか難し い問題です。だって、すでに大学の 中ですらハラスメントが問題になっ ているので。フィールドなら尚のこ と難しいなって思ってますね。



入学したときにはあった自炊などへの熱意が失われつつある今日このごろ…

⇒「自炊しなくなるよ」「掃除しなくなるよ」という上回生の言葉を「嘘だ~!」と一蹴していたのも今は昔。

(医・2 匿名奇望)

3.地理学

----「地理学」とはどんな学問で すか。

京大で面接された時にも「地理学って何ですか」と聞かれて「いや~~」と悩んでしまって。

でも地理学って「何」って決めようとするからすごくガラパゴス化してきた側面もあるんです。地理学だから、空間に絶対こだわらなきゃいけないみたいにしがみついていると、地理学っていう学問の可能性の幅をすごく自分から限定しちゃってると思うんです。だから何かそういう風に限定しちゃうと「自分の研究って本当に地理なんだろうか?」みたいに思ってる人も排除しちゃうし、地理学という学問そのものの幅も狭め

てしまうっていう風に全く良いこと ないんです。でも、今の説明だと地 理学って何かという問いには答えて ないね(苦笑)

――地理学の面白さは何ですか。

地理の面白さと大変さって表裏一体で、地理って元々学際的な分野で地表全部のことが対象なのですごい広いんですよね。経済もやるし、文化もやるし、社会もやるし、政治もやるし、自然もやるし、みたいな感じで。一方で地域研究って、経済学の人も入って、政治学の人も入って、社会学者も入って、みたいな感じでやるんです。地理って地理学だけで

分化してるから地理学って同じ学問 の中にいるけど、全然ものの見方が 違う人がいたりとかっていうことが 地理の面白いところ。

全然ばらばらのことをやっているように見えて、議論してることはやっぱり空間とか場所とか地域とかっていうのがベースになっていて、多様だけどまとまってるみたいなところがあるのが面白くもあるんです。

ただこれが難しくて「ちりちりバラバラ」って言われるんだけど(笑)分野とか人によって言ってることがまるで違うんです。ビッグワードで何となくまとまっているように見えて、意外とコミュニケーションが取れてなかったりして。

二つの国家、一つの地方、「ベンガル」



「バングラデシュ」とはベンガル語で「ベンガル人の国」を意味する。しかしその「ベンガル」は何もバングラデシュだけを指す言葉ではない。インドの西ベンガル州などもベンガル地方に含まれる。

イギリス領インド帝国時代は当初ベンガル州として一つの 行政単位に含まれていた。しかし1905年、ベンガル分割令 が出された。これは当時ヒンドゥー人口の多かった西ベンガルをヒンドゥーの居住地域に、ムスリム人口の多かった東ベンガルをムスリムの居住地域に、それぞれ定めた法令である。この法令自体は6年後に撤回されるが、その後も禍根を残し、地域内での宗教間の対立を煽った。

1947年にイギリスから独立する際に遂に別の国となったことで、東西両地域において宗教的マイノリティが多く生まれ、更にはロヒンギャ問題などの誘因にもなった。

こうした宗教が違えば社会も異なるというような前提に立った地域の見方について杉江先生は「宗教が宗教というより、ただの民族とか性別とかエスニシティとか、そういう差異の一つに成り下がった」と述べ、宗教について「"宗教"って一言に言っても、本当にいろんな側面があって、もちろん宗教も大事なんですけど、人の生活にとってそれが全てじゃない。なので宗教について扱う時は、いろんな側面を見るっていうのと、宗教だけに収斂しない人の関係とか、色々なやり取りとかもきちんと見ないといけないと思ってます」と語った。

(半年後には寒い寒い冬がやってくるんだ・・・・・!;編)

4.京大生へ

-----「文系」として大学院に進む ことについて、不安はありましたか。

全くなかったですね。いきあたり ばったりすぎて。

さっき言ったように学問って特権で、経済的に困らない人ができるようなものだから、難しいところなんだけど趣味になっちゃってもいいかなとは思うの。仕事は仕事として別のことをやりながら、大学院で研究したことも、ずっと好きで続けてくみたいな形でもいいと思うんです。今の制度では、研究機関に所属していないと研究者番号が貰えない、科研党が取れない、という状況なので研究職に就いていなくてもアカデミックな世界に居続けられる制度になるといいなと思います。

------京大の魅力は何ですか。

ネームバリューはやっぱり強いです。バングラデシュの人は知っているから。ASAFAS(アジアアフリカ地域研究研究科)の力が結構強くて、あそこに来ている留学生が大体みんなバングラデシュの大学の先生になったりとかしてるんです。「私も京大です。」「私も!」みたいな感じになって。ネームバリューってあん

まり振りかざしたくないっていう気持ちもあるけど、やっぱ強い。

――最後に京大生へのメッセージ をお願いします。

京大へ来てすごいカルチャーショックだったのは、学生さんたちが遠いんですよ。先生のことを偉いと思ってるでしょ(笑)

名大の地理(編集部注: 0.経歴 を参照)って全然そんな雰囲気なく て、先生をあだ名で呼んだり、学生 さんが先生の面倒を見ているくらい な感じでした。

それが京大に来たら学生さんたちのメールの書き方がとても丁寧だったんです。みんな就活のメールみたいなのを書いててすごいなと思って。でもちょっとよそよそしくて寂しいんです。もうちょっと先生を偉いと思わなくてもいいんじゃないのかな。そういうヒエラルキーが時々ハラスメントにも繋がることがあるので、先生をすごい偉いと思ったり、先生の言ってることが全部正しいと思ったりせずに議論をふっかけてきてほしいなと思います。あだ名呼びも大歓迎です!

——ありがとうございました!

著書紹介



「カースト再考」 名古屋大学出版会 2023

カーストはインドだけのもの、ヒンドゥーだけのものなのか。宗教と国が違えば社会は完全に違うものなのか。今のバングラデシュの農村社会がどうやって構築され今どうあるかを丁寧に紐解く。



院試勉強つらいっぴ ⇒進路考えるのつらいっぴ。 (エ・4 匿名希望) (みんな辛くてみんないい!;編)